

第552号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2015年 3月16日
発行責任者 喬木村公民館長 橋本 美穂
編集責任者 公民館編集部 長 仲田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

公民館楽遊塾第六講座

アロマオイルマッサージ

皆さんが手持ちの「アロマ」のイメージとは「癒し」「いい香り」等ではないでしょうか。
芳しい香りに包まれてマッサージを受けたら、どんなに心地良いことか、大きな期待を胸に今回の講座に臨みました。

講師は、アロマセラピストであり看護師でもある波田野明美さんです。
まずアロマセラピーとは何かお話をいただきました。アロマセラピーは芳香療法と訳されますが、治療ではなく緩和ケアの一環であり、自然治癒力の向上を図ることが目的なのだそうです。

五感の中でも嗅覚は軽んじられがちですが、香りと記憶は密接に結びついていて、香りから古い情景を思い起こすことができ、それが精神安定や気分高揚につながるのだそうです。
それは何もうまい香りに限らず、人によっては少しもいい匂いではないものがある人にとっては懐かしい思い出につながり、記憶の扉を開く鍵となっているケースも多々あって、それほど重要な感覚と意識したことでした。
そんなことからストレスに悩まされる現代人にとって家庭に限らず、病院や施設、企業でも気軽に取り入れられるようになってきました。

ただし副作用のあるものもあるためアロマオイルの取扱いは基礎知識が重要です。
アロマセラピーは、人に与える影響が大きいので、病室や施設、企業でも気軽に取り入れられるようになってきました。



まずは波田野先生のお手本を見学しました

てもらうことの心地よさといったらありません。人肌というのはいかにも癒しの効果があるなあとつくづく感じました。
帰りには、今回のマッサージに使用したものと同じグレイプシードのアロマオイルのおみやげもありました。
夜寝る前に香りを楽しむだけでもよし、家族にマッサージしてあげれば会話も弾み、絆もより一層深まるのではないのでしょうか。
最近ではアルツハイマー病の改善効果も期待されているそうです。効果のほどはさておき、アロマを生活の一部に加えることで、何気ない毎日の空間がちょっと華やかに、そして優しく変化することでしょう。(教養部)

文化財再発見シリーズ

20

無形文化財

「コト八日行事」その①

「コト八日行事」と「コトの神送り」

文化財保護委員 木下 俊佐

この行事は竜東地区ではおよそ四〇〇年の昔から伝承されていると言われており、二月八日を中心に「コトの神送り」などの行事とその前に行なわれる「事念仏」などの行事をあわせて「コト八日行事」と呼んでいる。各地区で少しずつや

り方が異なるが、全国的にも珍しい行事である。本村では富田、大和知、氏乗、加々須、大島で行なわれており、江戸時代の古文書(天明)にもその記録が残っている。しかし、現在では途絶えている地区もある。これらの失われゆく貴重な

民俗行事の伝承を願い、各地区の様子を記します。
富田地区では、今年も二月九日の夜に「事念仏」が行なわれた。上区、下区二軒の「お宿」がそれぞれ自宅と常会生活センターで執り行った。
富田では上、下区内で順番で行なうのが慣例になっている。
上では大数珠や版木などを今村家から借り受け、床の間に「お札」を祀り、小豆と黄粉のボタモチを供え、「奉唱大念仏百万遍所」の軸を掛け、「コトの神送り」の笹竹を立てかけ、音頭取りに合せて、「南無阿弥陀



富田下の「事念仏」

「五穀豊穡」「無病息災を祈り、途中大きな珠の数珠が来ると、額に当て願を懸ける。
「直会」で終了した。
下区では、「火定(※)仏堂」から道具類を借り受け、「奉唱大念仏百万遍 火定仏堂」の軸を掛け、「お札」を祀り、上と同様のおつとめを行なっている。
下の「事念仏」は定かではないが、天明の大飢饉の際、富田の「馬場」に庵を建て暮らしていた覚信和尚が飢饉で苦しむ住民を救うために火定に入り、一命を捧げたことから、和尚の遺

徳を偲び、その命日に建立した火定仏堂で最初に始まったという言い伝えがある。(今回の「文化財再発見シリーズ」に続く)
※火定 仏堂修行者が火中に身を投じること
参考資料「下久堅の民俗権井弘人」

平成26年度 第4回 公民館平和学習会 「満洲のなかの喬木村」に参加して

去る二月二十一日に、今年度第四回目の公民館平和学習会が開催されました。
喬木村のご出身で、長野県立歴史館の青木隆幸先生をお招きし、「満洲のなかの喬木村」というテーマでお話をいただきました。
二〇一三年に阿智村に満蒙開拓平和記念館が開館し、全国から多くの参観者が訪れ、私たちの記憶から消えてしまいうようになっていた満蒙開拓の歴史に光が当てられるようになりました。



青木先生の熱のこもった講演を熱心に聞く参加者の皆さん

今回のお話はその中でも最も多くの方々を開拓団に送り出した長野県、そして私たちの故郷である喬木村から送り出された開拓団の方々のその足取りの一端を追うことから、そこで生き死にせざるを得なかった一人一人に思いを馳せ、満蒙開拓という歴史の真実に少しでも迫ろうというものでした。
青木先生は残された資料を丁寧に拾い上げ、まとめ、さらにその背景を調べて浮かび上がってきた事実を、私たちに示して下さいました。
長野県では全ての市町村が、満洲移民を送り出したこと、とりわけ下伊那に集中していたこと、喬木村からは四〇〇人近くの人が海を渡ったこと。さらに喬木村の移民の方がどの移民団に属し、その満洲での地はどこにあったのか。
それらのことから多くの移民団が、危険なソビエト

第32回 ふるさとづくりフォーラム

たかぎ村 再発見～たかぎの未来は自分たちの手で～



実行委員長のあいさつでフォーラムの幕開けです

二月十五日(日)福祉センターと第一小学校体育館を会場に、第三十二回ふるさとづくりフォーラムが開催されました。村づくりをみんなで考えていこうということで始まったこのふるさとづくりフォーラムは、主に公民館社会部が中心となって進めている事業です。

公民館社会部では昨年六月から打合わせを始め、各分館の役員の方や学校保育園の関係者等で「ふるさとづくりフォーラム実行委員会」を組織し、準備を進めてまいりました。九月に一回目の実行委員会が開かれてから、約半年にわたり、テーマ、分科会の構成、実施方法、講師の選出に至るまですべて実行委員の皆さんの手で準備が進められてきました。

今回のフォーラムは、「たかぎ村 再発見～たかぎの未来は自分たちの手で～」をテーマに、村を今一度見つめ直そうということ、二つの分科会を行いました。

一つは、防災講演会と、むらづくり未来委員会との共催で村についての意見交換会を行った「みんなで喬木村の未来を考えよう分科会(会場 福祉センター多目的ホール)。もう一つは、元気な喬木村をアピールするべく、みんなでペリー&ゴードンスを踊った「ペリー&ゴードンス」分科会です(会場 第一小学校体育館)。

当日は、それぞれ一〇〇名を超える方に「参加いただき、有意義な時間を過ごしていただけたこと、ありがとうございました。」と、「ご参加いただいた皆様と、多くの実行委員の皆様のご協力のもと、今回のフォーラムを無事終えることができました。心より感謝申し上げます。」

実行委員長あいさつ フォーラム実行委員長 筒井 和彦

今回のふるさとづくりフォーラムは「たかぎ村再発見～たかぎの未来は自分たちの手で～」をメインテーマに、「みんなで喬木村の未来を考えよう分科会」と、「ペリー&ゴードンス分科会」の二つの分科会にて行われました。

みんなで喬木村の未来を考えよう分科会では、防災についての講演会と、村についてのワークショップ(意見交換会)を行いました。講演会では、県の危機管理防災課の玉野井博先生より、日頃私たちが備えてお

くべきことや喬木村の危険な箇所等について講演を行いました。多くの方がご存知だと思いますが、あの四年前の東日本大震災の時の言葉で、「釜石の奇跡」という言葉があります。

地震が収まり、釜石東中学で放送も使えず先生の指示もない時に、外にいた生徒が「津波がくるぞ」と叫びながら走り出しました。これを見て校内にいた生徒も外に出て避難場所の高台を目指しました。さらに隣接する小学校の児童たちも中学生の姿を見て階段を下り、校舎を飛び出して後を追いました。そしてまもなく、小中学校共に津波の直撃を受けました。釜石では、三千人の小中学生のほとんどが押し寄せた巨大津波から逃れて無事でした。

「釜石の奇跡」とはこのことを指していますが、これは釜石の小中学生が防災教育で受けた避難の三原則想

みんなで喬木村の未来を考えよう分科会 分科会サブリーダー 羽生 明弘

これからの喬木村についてみんなで考える場となるように、講演会とワークショップ(意見交換会)の二部構成で実施しました。

第一部の講演会では、講師に長野県危機管理防災課 防災指導員の玉野井博先生をお招きし、防災の視点から村を見つめました。「地域の防災力をアップしよう」と題したお話は大変分かりやすく、災害についての基本的な知識や前兆現象など、今後役に立つお話をたくさんしていただきました。



講演会「地域の防災力をアップしよう」講師の玉野井先生

定を信じるな「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」これらを身に付けた結果、たとえひどく大きな災害が起こった時、その初動をいかにすみやかに行うかがとても重要なことであり、まさに生死の分かれ目となります。

講演会に続いて行われたワークショップでは、「喬木村の未来を共に創ろう」をテーマに自由に意見交換を行いました。この分科



ワークショップでは村民の皆さんから多くの意見が出されました

中でも印象に残っているのが、今盛んに言われている「南海トラフ巨大地震がいつ来てもおかしくない」

先生をお招きし、防災の視点から村を見つめました。「地域の防災力をアップしよう」と題したお話は大変分かりやすく、災害についての基本的な知識や前兆現象など、今後役に立つお話をたくさんしていただきました。

第二部は、現在策定中の第五次喬木村総合計画に、より多くの村民の意見を反映させることを目的に、ワークショップ形式の意見交換会が行われました。

一〇〇人を超える参加を得て、最初にワークショップの進行についての指導を受けた後、十一のテーブルに分かれて開始となりました。

ワークショップでは、自由で気軽な雰囲気の中で、村に対する想いや夢が、カードに込められて並んでいきました。ランダムに並んでいるカードが、同質のテーマ毎に集められていき、渾沌の中から様々な発想が浮かんでくる面白さを味わっていると、結果発表の時間となりました。

村民の方々の村づくりに寄せる熱い関心と深きに敬服させられるとともに、共に創っていくことの大切さを教えていただいた意義のあるワークショップとなりました。

先生をお招きし、防災の視点から村を見つめました。「地域の防災力をアップしよう」と題したお話は大変分かりやすく、災害についての基本的な知識や前兆現象など、今後役に立つお話をたくさんしていただきました。

第二部は、現在策定中の第五次喬木村総合計画に、より多くの村民の意見を反映させることを目的に、ワークショップ形式の意見交換会が行われました。

一〇〇人を超える参加を得て、最初にワークショップの進行についての指導を受けた後、十一のテーブルに分かれて開始となりました。

ワークショップでは、自由で気軽な雰囲気の中で、村に対する想いや夢が、カードに込められて並んでいきました。ランダムに並んでいるカードが、同質のテーマ毎に集められていき、渾沌の中から様々な発想が浮かんでくる面白さを味わっていると、結果発表の時間となりました。

村民の方々の村づくりに寄せる熱い関心と深きに敬服させられるとともに、共に創っていくことの大切さを教えていただいた意義のあるワークショップとなりました。



まとめられた意見の発表の様子(ワークショップ)

地域の防災力をアップしよう

講演会資料より(抜粋)

【災害への備え】 土砂災害(身をまもる)

土砂災害から身をまもるために

土砂災害(予測の難しい災害)の被害を防ぐためには、一人ひとりが土砂災害から身を守るように備えておくことが重要です。そのために知っておくべき、4つのポイント。

- 事前の確認 ①住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かの確認(ハザードマップ、しんしゅうらしのマップ等)
- 雨が降り始めたら ②雨が降り出したら土砂災害警戒情報・避難情報に注意(ラジオ、テレビ、テレビのdボタン(気象情報))
- 豪雨になる前に ③前兆現象に注意
- ④早めの避難

【災害への備え】 土砂災害(前兆)

土砂災害の前兆現象(異変に気づく)を知ろう

- 土石流の前兆現象
 - ①土石流発生時に、地面が揺れる。
 - ②土石流発生時に、地面が揺れる。
 - ③土石流発生時に、地面が揺れる。
- 地すべりの前兆現象
 - ①地すべり発生時に、地面が揺れる。
 - ②地すべり発生時に、地面が揺れる。
 - ③地すべり発生時に、地面が揺れる。
- がけ崩れの前兆現象
 - ①がけ崩れ発生時に、地面が揺れる。
 - ②がけ崩れ発生時に、地面が揺れる。
 - ③がけ崩れ発生時に、地面が揺れる。

土砂災害警戒情報等は市町村単位に発表されます。「長野市」と発表、「北石堂町」は発表されない。気象台HPに「土砂災害警戒判定メッシュ情報(5kmメッシュ)」がある。

【災害の知識】 活断層での地震(長野県の活断層)

30年以内の地震発生確率

- 境峠・神谷断層帯 ほぼ0~13% M7.6(全部)
- 阿寺断層帯(全部北部) 6~11% M6.9
- 木曾山脈西縁断層帯(全部南部) ほぼ0~4% M6.3
- 信濃川断層帯 ほぼ0% M7.5
- 糸魚川-静岡構造線断層帯(宇伏寺断層含む区間) 14% M8
- 伊那谷断層帯(境界断層) ほぼ0~7% M7.7 (前縁断層) ほぼ0~6% M7.8



大人も子どもも楽しく踊りました

上の方にご参加いただき撮

昨年、喬木村に新たに自慢できる事が増えました。皆さんもご存知かと思いますが、村のイメージキャラクター「ベリー&ゴー」にプロの方からテーマソングをご提供いただき、曲に合わせたダンスが完成したのです。

動画サイト「YouTube」を活用し、「喬木村とb e」があるんだ！」と全国の人に知ってもらおう事が第一歩です。喬木村のように自然豊かな場所にある人は少なくありません。そこでベリー&ゴーダンス分科会では、子どもから大人まで一〇〇名以上の方に参加



ベリー&ゴーダンス分科会

分科会リーダー 中村 沙央里

影に挑みました。ダンスの先生のご指導のもと、小中学生を中心に練習を始め、みんなみるみる踊れるようになり

撮影時間に合わせ小さなお子さん達が集まってくれ、いよいよ本番。ベリー&ゴーも登場して、子どもたちは笑顔いっぱい

未来の喬木村に必要なのはこれから大人になる子どもたちです。そんな喬木つ子が大人になった時、喬木村に住み、子育てしたいと思えるよう、村の良さをアピールできるようにイベントを繋げていけたらと感じました。



練習も楽しかったです！

★フォーラムで撮った映像を **現在 YouTube で配信中!** パソコン、スマホからぜひ検索を!

ベリー&ゴーダンス

検索

みんなでチェックして、視聴回数を増やそう! (いちごチャンネルでも、映像の一部を放送中です)

※パソコン、スマホでご覧になれない方へ… You Tube で配信中の映像は、3月下旬からいちごチャンネルで放送予定です。そちらをぜひご覧ください。

参加者アンケートから (抜粋)

◇今回のフォーラムに参加して、みての感想と次回への提案

【みんなで喬木村の将来を考えよう分科会】

予知できない災害に対して、いかに対策をとっていくかという事は重要なテーマです。今回のフォーラムが年に一度の避難訓練に活かされるようにしていきたいと思えます。なお、実際に災害が起こったときにどのようすべきかを取り上げていただければと思います。準備と対策については個々に行われていると思います。東日本大震災にボランティアに行かせてもらった時に見聞したのは、例えば震災後、地域の治安が悪くなったため、夜に自警団を組織して地域の防犯対策を行ったようです。人命救助に何が必要で、その後生活が安定するまでに何をやっていったかということも十分に考慮していただきたいと思えます。

・ ワークショップで多くの人たちのそれぞれの立場での意見が聞けた。
・ 初めて会う方達と村のことについて語り合えてよかった。今回のことを(みんな考えはじめたところなので)間を置かず次の機会をもつことが大事だと思う。
・ いろんな人とお話ができて良かった。幅広い層の意見が聞けて良かった。

・ いろいろな地域の方たちと交流できたことが新鮮でした。若い方の意見・考え方を聞く機会がもて良かったです。自分で行動していきたいです。
・ いろいろな意見を聞くことができ、大変参考になりました。自分たちの村は自分たちで変えていくことが大切だと思います。
・ 各テーブル毎に話し合えて、それも初めての方々と村の将来について考えることができてとてもよかったです。

・ 村のいろいろな年齢の方と話す機会がもて大変おもしろかったです。
・ 今の村のよいところ、これからの喬木村をどうしていきたいか、こんなに沢山の人が真剣に話し合い考えたことはとても新鮮でした。皆村を大切に思っていて、考えを合わせて深めていけばとてもよい村の将来について深く考えたいです。ぜひ次の深める作業につなげていってほしいと思います。ありがとうございました。
・ 参加してみても大変良かったです。また、これからの物の考え方に役に立った気がする。ワークショップは初体験でしたが、割合思った以上に活発にできたと思うがこれからは回を重ねて行ってほしい。ぜひ参加したいと考えています。
・ 喬木村の将来についてこのように考えたことはありませんでしたが、私自身が真剣に考えていかなければと思いました。ワークショップでいろいろな人の考え・意見を聞けて、いろいろな角度で村を考えるきっかけになって良かったです。
・ 多くの方が村を良くしようと思っている。この意見と意見を村の中で活かせるように、機会を作ったり活動できる場を持つていただけたらと思います。ここで出た意見を多くの方の目に届くように分かりやすくまとめていきたいと思います。
・ 喬木村の現状、将来についていろいろな方の思いが聞けて勉強になりました。皆で考え知恵を出し合って新時代の喬木村を作っていくといいと思います。

・ 大変考えさせられた時間でした。
・ 参加前はどんなことを話せばいいのか不安だったが、年代・職種の違ういろいろな方と話ができて、新鮮でした。またいつも参加する人が決まっていたと思うのですが、保育園・小中学生の子どもたちもフォーラムに関心をもち、参加してくれたことはうれしいです。
・ より多くの人々に参加してほしい。
・ 若者が定着できることが最大の課題。子どもに「喬木の良さ、自然を体験させる仕組み」の実施が必要と感じました。
・ ワークショップはこれで終わりにしないでほしい。グループ内の人数を少し減らして、年代別にしても面白いと思えました。
・ このフォーラムがどの程度活かされるか楽しみです。

◇今後フォーラムでやってみたいこと、取り組んでほしいこと等

・ 健康教室。
・ 取り上げた内容を掘り下げて具体的な取り組みができるように要望します。
・ 村の改革の話し合いを何回でも行うべきだと思います。
・ どこにもいる村民の体験を一人十五分で、数人に話してもらいたい。
・ 自由に物の言える、住民参加の場を数多く作っていただきたい。
・ 男女共同参画を考える会。
・ 人間づくりを育てる講演会。食育に関係したと。
・ いろいろな年代の方が参加できる企画。
・ 夢を作り語るのの良いことだが、「やってきたこと」の検証として考える機会」と、「改め直す仕組み」について考える機会をつくらしてほしい。
・ みんなで何か大きな物(食べ物)を作る。
・ 「〇〇を始めた」「△△は□□にある」などの情報交換の機会。
・ いちごに関する小物づくり。
・ スポーツ教室。みんなのできるスポーツ。

第二十七回 棕鳩十賞読書感想文コンクール 棕鳩十賞・優秀賞作品発表

棕鳩十賞

「黄金の島」 ポプラ社

大崎下島の人々



長野市

山口 真一

翻弄。そんな言葉があまりにびつたりします。瀬戸内海に浮かぶ小島でありながら、大崎下島は、繁栄を手にしても、その時代の日本が行ってきた政策の歪みに強く影響され、痛手を受けることを繰り返してきました。本文のある個所ではそれ(II青江ミカンが実った色)は、かつての栄光を思わせる黄金の色ではなく、何ものかに怒りをおぼえた鬼が、金色の目をむきだして、空の一角をにらみつける……と総括される叙述があります。表題の『黄金』とは、真の輝きを保ち続けるものではなく、結局は剥がれてしまっただろうメッキであったという筆者の捉えが行間々にじみまします。

さらにこの叙述の後に、付け加わったかのような加島正人の物語が続きますが、こ

した末岡倍作らの島おこし七人衆。そして、試行錯誤を重ねながらも日本初のミカンのカンヅメを作り上げた加島正人。

彼らの一途で、幾多の困難にめげない生き方は、何に由来するのでしょうか。『黄金の島』は教えてくれます。それは、歴史をさかのぼってわかる島の先祖たちの山畑開墾の姿です。

徳川時代、大崎下島の先祖たちは「こんもりと木のしげった」瀬戸内海の島々を次々と拓きました。険しい山で木を伐り、焼き払い、石を積んで平地を作り、段々畑を築く……「わたり作り」とよばれる仕事は、内陸の平地や山地を開拓するのとは比べ物にならない苦労でした。そのため得た高いスキルは「大崎下島の早仕事」と世間

では賞賛されたといえます。何百年もの風雪に耐えられぬ畑を作ってきた大崎下島の人間ならではの生き方が培った、真つぎな意志と粘り強さが、彼らの身に流れる血にも受け継がれてきたに違いありません。

そして、暮らす土地が島(海と山。一つ処に住まう者と山から山を渡り歩く者。農耕を生活の糧にする民と、狩猟で命をつなぐ民。生活の方向性は面白いくらいに正反対なのですが、厳しい自然に向き合い、自然に立ち向かい、自然と一つになって生きていく強靱なバイタリティーをもった人間たちといえ、傑作の根幹をなしている、あの「山窩の民の魂と同じ根をもっている」とさえ思えなならないのです。

母スズメは、あきらめない心を持ったスズメでした。わたしが一番感動した場面は、巣が何度もこわされてもあきらめず、子どもを守るためにスズメがひつしにたたかう場面です。最初はきれいな巣を作り、かわいらしいたまごを生んで大事にしていたのに、へびに食べられてしまいました。母スズメが大切にしていた真つ白な巣の中心においが巣にしみつくほどへびが動きまわっていたかと思うと、ぞつとしました。そして、かた足スズメがとてもしんでいて、首をかしげてかた足で、立っている様子を見ながら、とても悲しそうにわたくしを悲しい気持ちでいっぱいになりました。

優秀賞

「片足の母スズメ」理論社

あきらめない母スズメ



喬木第一小学校 四年

内山 ひなた

わたしがどうしてこの話を読もうと思ったかというところ、かた足の母スズメという題名を読んで「最後はどんなことがおきるのかな」とこの本に出るのかた足

朝日の中で、えんとつのはつてつべんに止まってむねをはつて歌うスズメは、立派だなあと思いました。それなのに、スズメが作った巣がまた

こわされてしまいます。えんとつの中に作った新しい巣は、おふろの火をたきつけられてしまったのです。スズメは、はげしく鳴いて、どこまでも高く高くまい上がり、飛んでいつてしまいました。それはどびつくりしたんだなあと思いました。わたしは、こんなに何度も巣がなくなってしまうと、スズメは巣を作るのがいやになってしまおうと心配しました。だけど、かた足スズメは、新しい巣を作り始めていました。わたしは、あきらめずちよう戦つづけるスズメにおどろきましました。そして3つのおたまごで生まれました。

それでもまたへびが巣をおそいにやってきてしまいました。でも、かた足スズメは前のように弱々しい感じがしません。へびのにおいをかいただけでふるえ上がっていた時とはちがつて、へびの頭めがけて全身をぶつけているのです。はなれたと思えばとびつき、とびついたら思えばはなれ、すきもあたえずぶつつかつていくのです。む

かた足スズメがへびとたたかっているところを読んだら、子ども達を守ろうとひつしてたたかうスズメに感動しました。わたしは、スズメに、いつでもあきらめないというところが大切だということとを教えてもらいました。

たかぎ短歌会

如月歌会詠草

マララさん銃弾の悲劇に負けないでノール賞受く「子供の権利」田中 妙子
 年明けの空を仰げば羊雲西も東もふわふわ浮かぶ 大村 初見
 捕らわれし科人たちを思ふとき生まれし時は真白でありしを 市瀬 准子
 この冬も大雪ならむと初春に妻は雪掻きまたひとつ買う 桐原 邦夫
 息子のくれしモダンな柄のねこを着て鏡に向かい何度も振り向く 小椋 りよ

息子らの産毛臍の緒ほんやりに納めて送り古希を迎える
 つむじ風と遊ぶ枯葉は鳥のごと風おさまれば集ひてしをらし
 寒さなど負けずには夫は出勤す今朝も手を振る見送る我に
 ものみなが枯れゆく寒さに菜園のホーレン草の緑うれしき
 日向ぼこしたくなるよな塀のそば福寿草ひとつ小さき蕾
 孫描きし吾が顔どれも明るくてクレヨンの絵に励まされぬる
 鳥たちも去年の秋は飽食か山の熟柿、まだ残れる
 旅先の小さな出会いが縁となり心を結ぶ産地直送
 隣国の日中韓が冷えきりし今よみがえる平山画伯
 佳き友と判る筆跡の賀状来し顔や仕草や声まで浮かぶ

知久 美子
 関島 春子
 木下 寿子
 岩間 幸子
 木林 睦枝
 内山 和子
 元島 康子
 羽生 俊彦
 原 健彦
 福澤 亀人

平成26年度分館対抗卓球大会

二月八日(日)、分館対抗卓球大会が中央社会体育館を会場に行われました。男子は十五分館十八チーム、女子は八分館八チームが参加しました。今回の卓球大会をもって、今年度すべての分館対抗卓球大会が終了となりました。ご参加いただいた皆様、各分館役員の皆様、体育部員の皆様のご協力に対し心より感謝申し上げます。

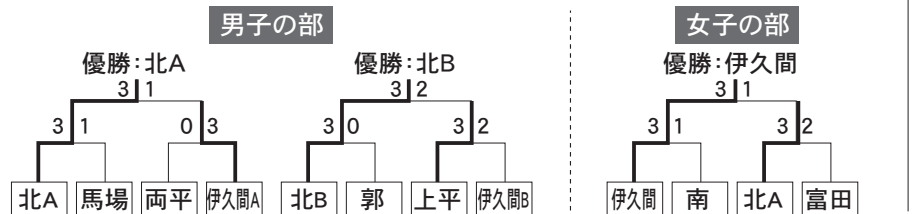


男女ともに好成績をおさめた北分館



女子の部優勝の伊久間分館

平成26年度 分館対抗卓球大会結果表



編集後記

寒い寒いとちこちこまっていたのが、いつの間にか外に出て気持ちの良い日が少しずつ増えてきた。花粉症のため本当はあまり外には出たくないのだが、やはり太陽の暖かさに心がウキウキしてくる。

春は色々忙しい。家のことでは、息子が卒業して社会人になる。小さい頃も大きくなっても親として何かしら心配するもので、自分もそうやってここまで来たのだと改めて思う。

ウキウキしたりドキドキしたり、ゆつくりする間もないが、そういう時間も春の訪れと共に少し楽しめる余裕をもちたいと思う。

喬木村/公民館/むらづくり未来委員会共催イベント

喬木村未来づくり講演会

南信州 喬木村が輝くために

リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通を見据えたむらづくり



3月28日(土)

19:00~20:30

福祉センター2階

多目的ホール

講師:森永卓郎氏

(獨協大学教授・経済アナリスト)

参加費無料・予約不要
当日どなた様でもお気軽に会場へお越しください。

～講演内容～
 ・日本を取り巻く経済状況
 ・リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通を見据えた地域づくりのあり方
 ・村民協働のむらづくりの進め方
 ・村が輝くための方向性

託児所開設!!
 ご希望の方は3月20日までに事務局までご連絡ください。

お問い合わせ むらづくり未来委員会事務局(企画財政課) TEL:33-5129